

# 令和元年度

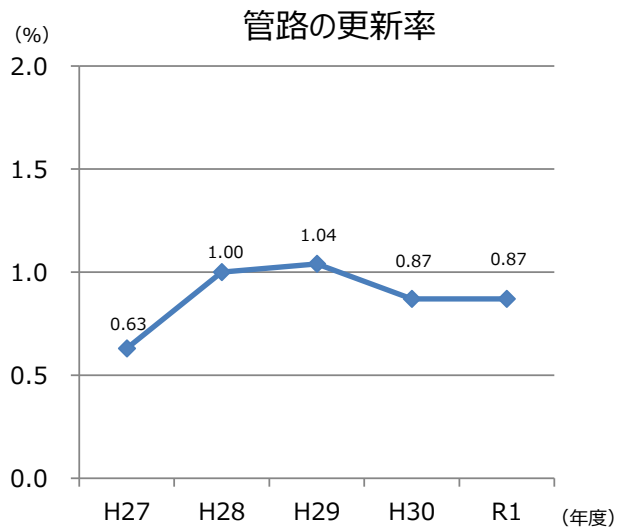
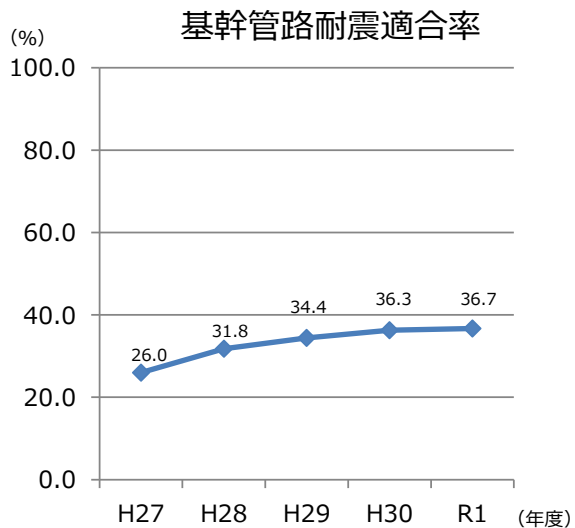
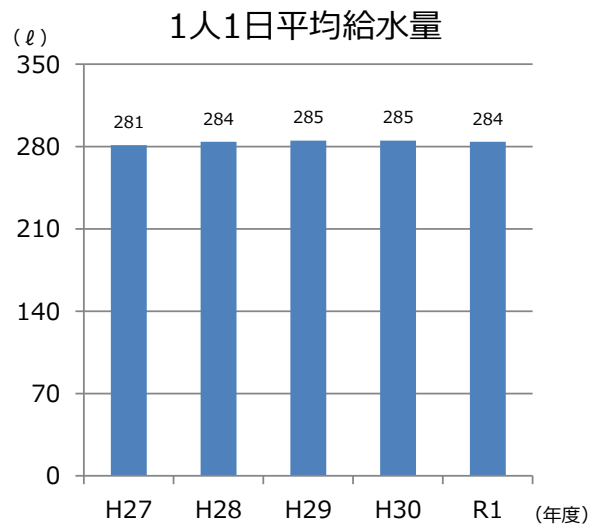
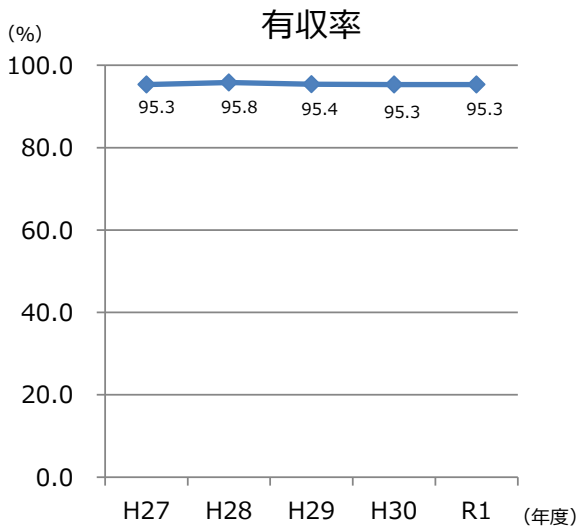
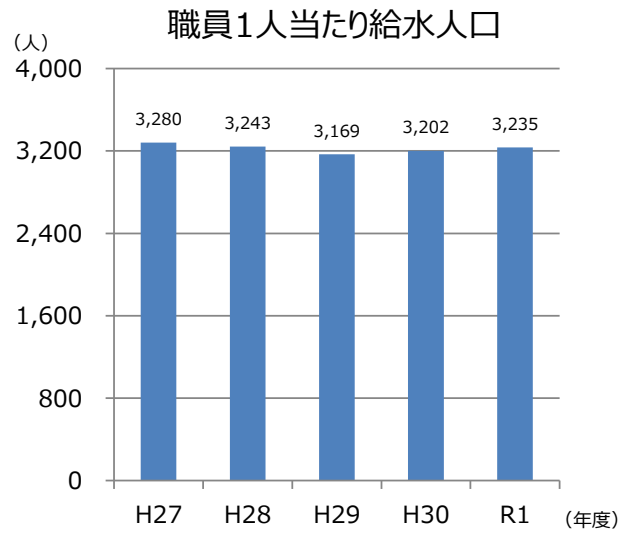
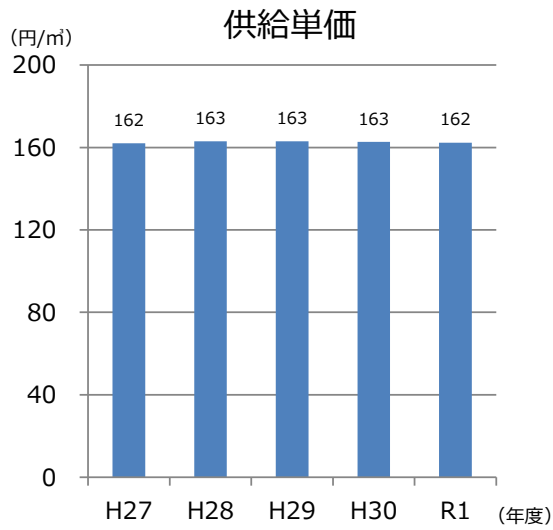
## 松山市公営企業の業務状況 ～別冊資料～

### 目次

I	水道事業会計	
1	水道事業業務指標（1）～直近5か年の推移～	… 1
2	【参考】平成30年度水道事業業務指標（1）～中核市平均値との比較～	… 2
3	水道事業業務指標（2）～直近5か年の推移～	… 3
4	【参考】平成30年度水道事業業務指標（2）～中核市平均値との比較～	… 4
II	簡易水道事業会計	
1	簡易水道事業業務指標～直近5か年の推移～	… 5
III	工業用水道事業会計	
1	工業用水道事業業務指標～直近5か年の推移～	… 7
2	【参考】平成30年度工業用水道事業業務指標～類似団体平均値との比較～	… 8
IV	公共下水道事業会計	
1	公共下水道事業業務指標～直近5か年の推移～	… 9
2	【参考】平成30年度公共下水道事業業務指標～中核市平均値との比較～	… 10

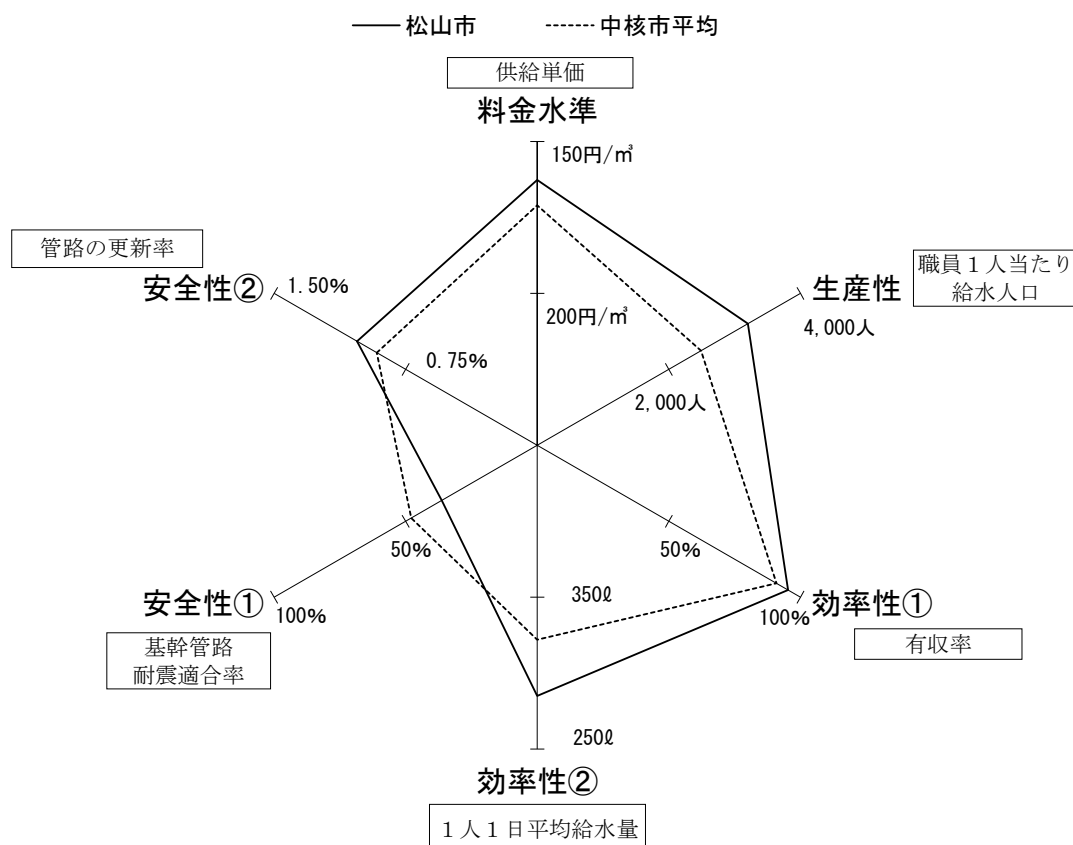
# I 水道事業会計

## 1 水道事業業務指標（1）～直近5カ年の推移～



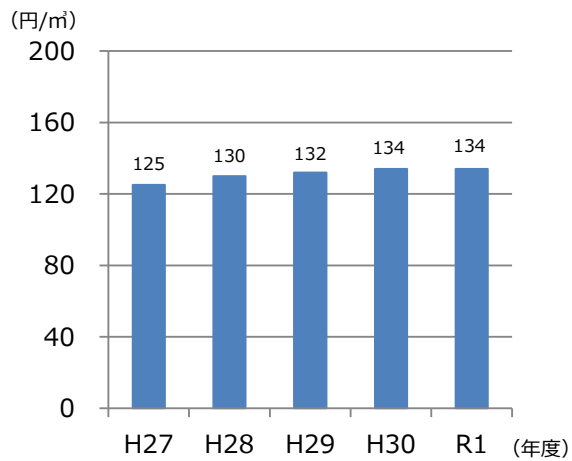
## 2 【参考】平成30年度水道事業業務指標（1）～中核市平均値との比較～

項目	指標	単位	松山市	平均	算定式	備考
料金水準	供給単価 (平成30年度)	円/m <sup>3</sup>	163	171	$\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$	低い方が良い
生産性	職員1人当たり 給水人口 (平成30年度)	人	3,202	2,488	$\frac{\text{給水人口}}{\text{損益勘定職員数+資本勘定職員数}}$	高い方が良い
効率性①	有収率 (平成30年度)	%	95.3	90.9	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量(給水量)}} \times 100$	高い方が良い
効率性②	1人1日 平均給水量 (平成30年度)	ℓ	285	322	$\frac{\text{1日平均給水量(配水量)}}{\text{給水人口}}$	低い方が良い
安全性①	基幹管路耐震適合率 (平成30年度)	%	36.3	47.9	$\frac{\text{耐震適合性のある管路延長(基幹管路)}}{\text{管路延長(基幹管路)}} \times 100$	高い方が良い
安全性②	管路の更新率 (平成30年度)	%	0.87	0.72	$\frac{\text{更新された管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$	高い方が良い

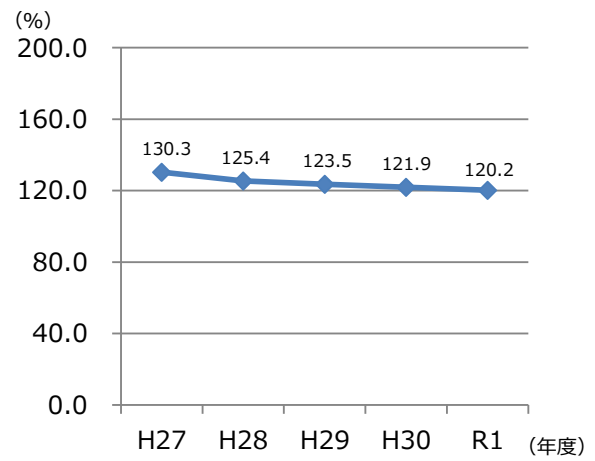


### 3 水道事業業務指標（2）～直近5カ年の推移～

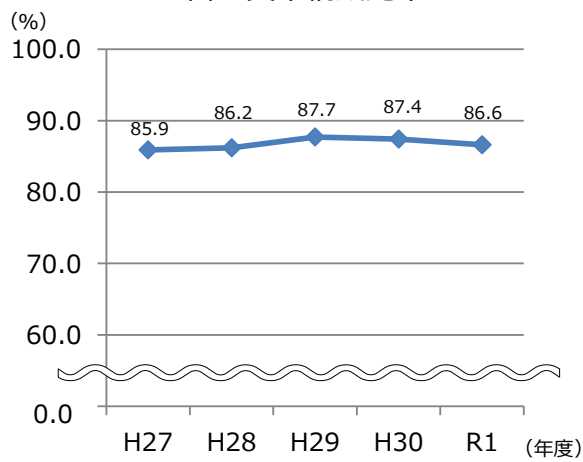
給水原価



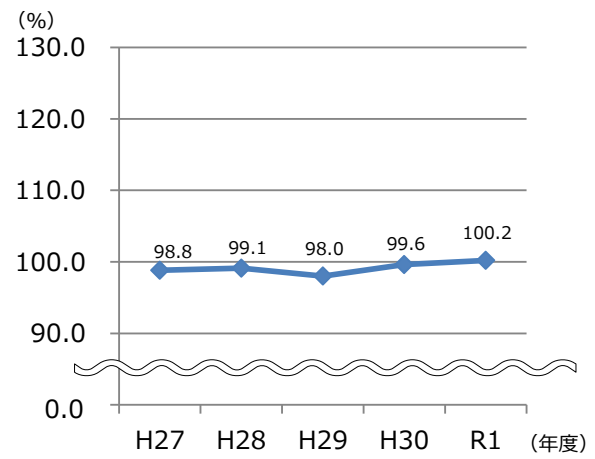
営業収支比率



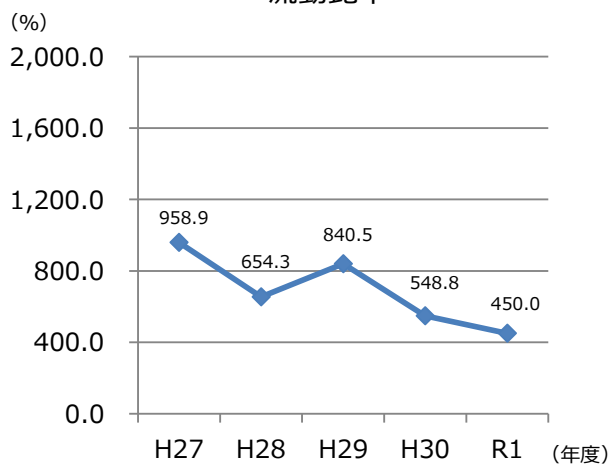
自己資本構成比率



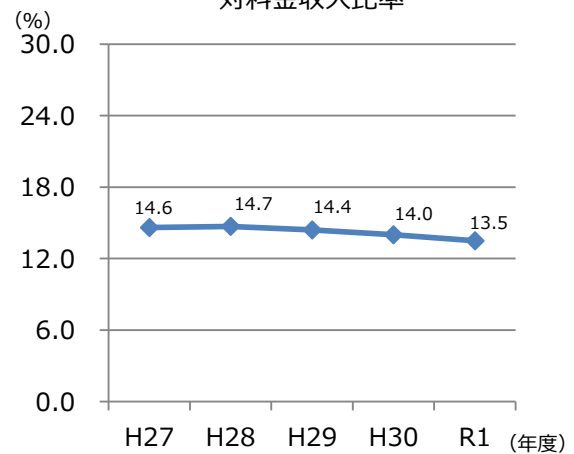
固定比率



流動比率

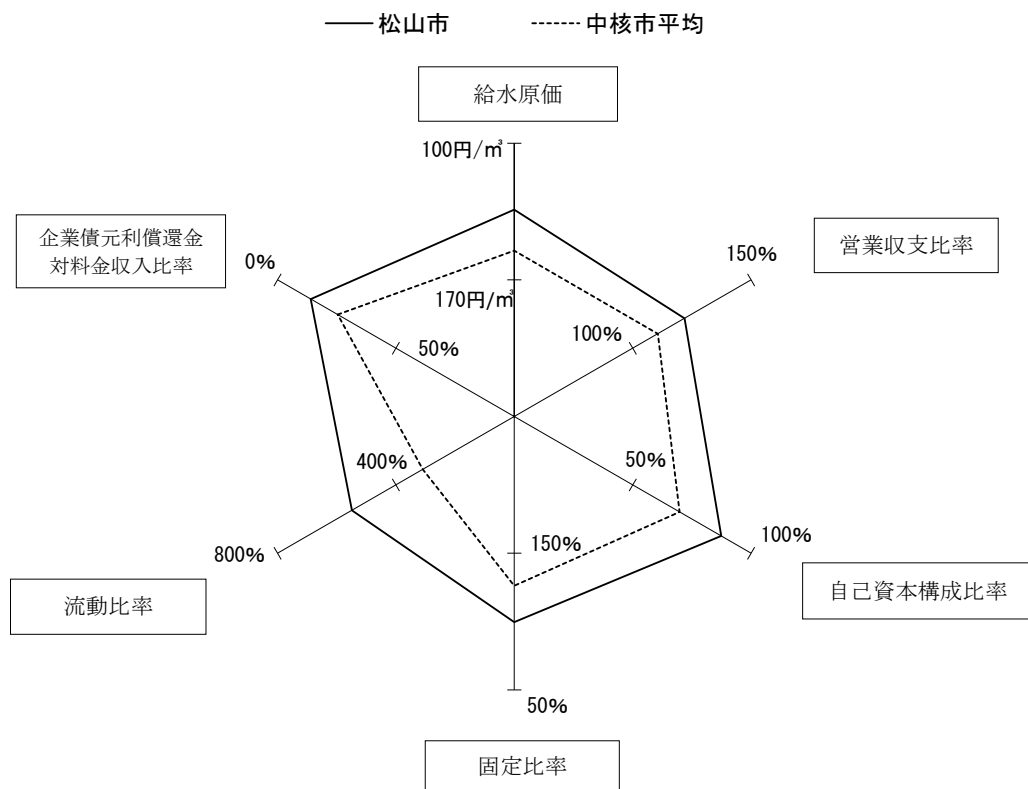


企業債元利償還金  
対料金収入比率



#### 4 【参考】平成30年度水道事業業務指標（2）～中核市平均値との比較～

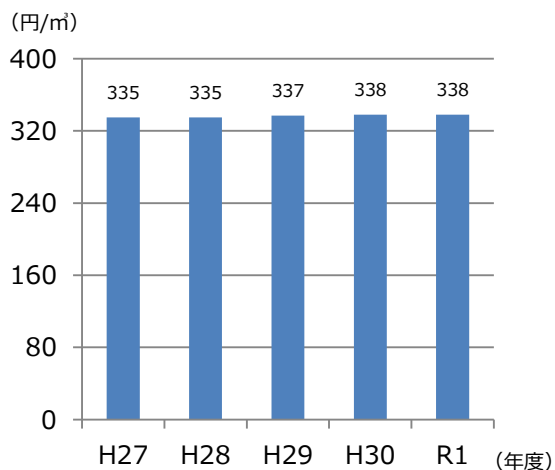
指標	単位	松山市	平均	説明	算定式	備考
給水原価 (平成30年度)	円/m <sup>3</sup>	134	155	有収水量1m <sup>3</sup> を生産するためにかったコスト	$\frac{\text{経常費用} - (\text{受託工事収益} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{附帯工事費} + \text{長期前受金戻入})}{\text{年間総有収水量}}$	低い方が良い
営業収支比率 (平成30年度)	%	121.9	110.6	営業収益の営業費用に対する割合で、本来の営業活動の収益力を見る指標(100%を一定程度上回る必要あり)	$\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$	高い方が良い
自己資本構成比率 (平成30年度)	%	87.4	69.8	総資本に対する自己資本の割合で財務の安全性を見る指標	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$	高い方が良い
固定比率 (平成30年度)	%	99.6	126.2	固定資産を自己資本でどの程度賅っているかを示す財務構造の安定度(安全性)を見る指標 ・理想 100%未満 ・健全 100%～120% ・過剰投資 200%以上	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$	低い方が良い
流動比率 (平成30年度)	%	548.8	309.3	流動負債に対する流動資産の割合で、短期債務に対する支払い能力を示すもの(理想比率は200%以上)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	高い方が良い
企業債元利償還金 対料金収入比率 (平成30年度)	%	14.0	25.4	料金収入に占める企業債元利償還金の割合	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{給水収益}} \times 100$	低い方が良い



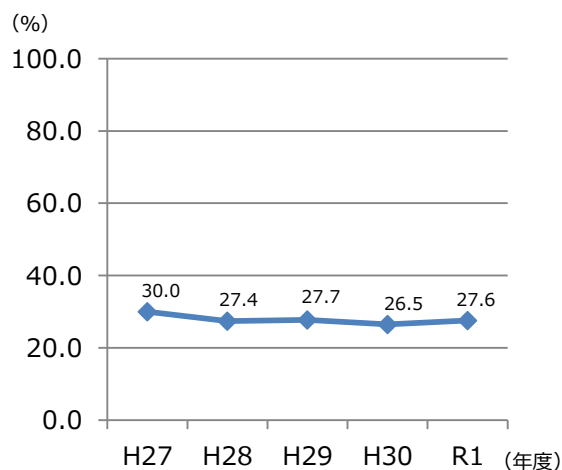
## Ⅱ 簡易水道事業会計

### 1 簡易水道事業業務指標～直近5カ年の推移～

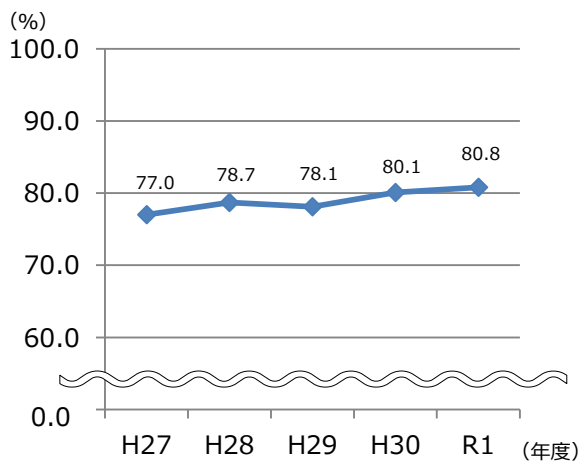
供給単価



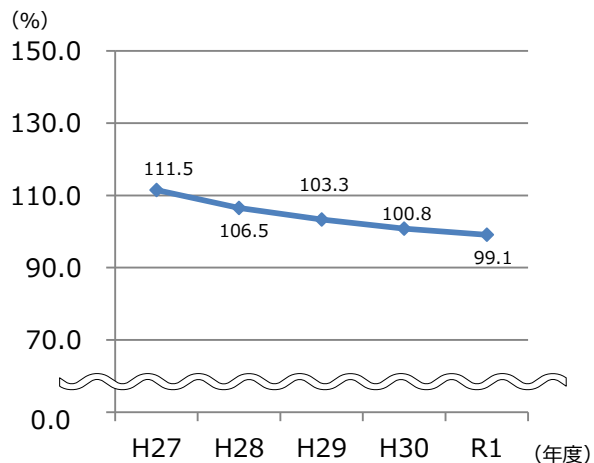
営業収支比率



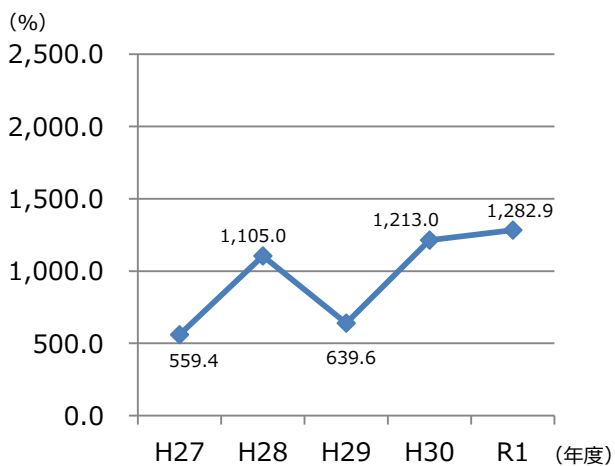
自己資本構成比率



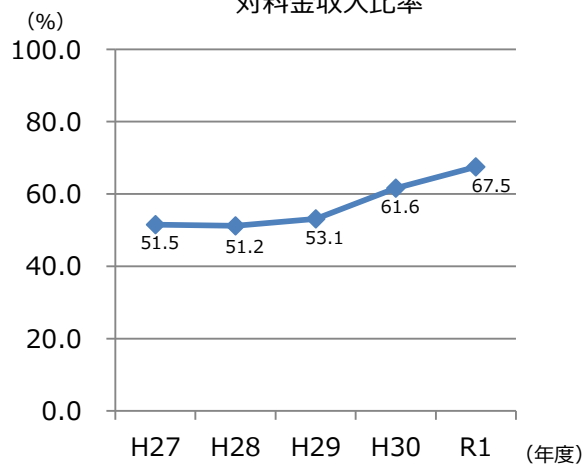
固定比率



流動比率



企業債元利償還金  
対料金収入比率



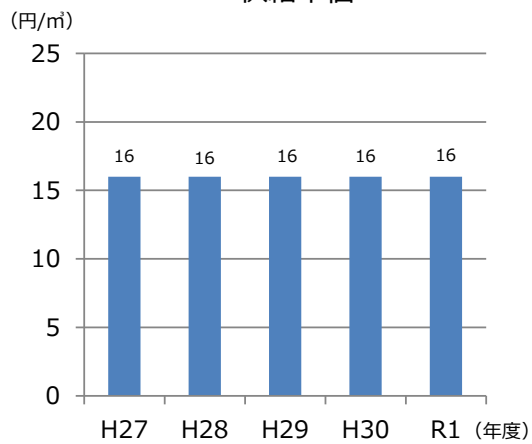
## 簡易水道事業業務指標の説明と算定式

指標	単位	説明	算定式	備考
供給単価	円/m <sup>3</sup>	有収水量(料金算定分)に対する給水収益	$\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$	低い方が良い
営業収支比率	%	営業収益の営業費用に対する割合で、本来の営業活動の収益力を見る指標(100%を一定程度上回る必要あり)	$\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$	高い方が良い
自己資本構成比率	%	総資本に対する自己資本の割合で財務の安全性を見る指標	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$	高い方が良い
固定比率	%	固定資産を自己資本でどの程度賅っているかを示す財務構造の安定度(安全性)を見る指標 ・理想 100%未満 ・健全 100%~120% ・過剰投資 200%以上	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$	低い方が良い
流動比率	%	流動負債に対する流動資産の割合で、短期債務に対する支払い能力を示すもの(理想比率は200%以上)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	高い方が良い
企業債元利償還金対料金収入比率	%	料金収入に占める企業債元利償還金の割合	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{給水収益}} \times 100$	低い方が良い

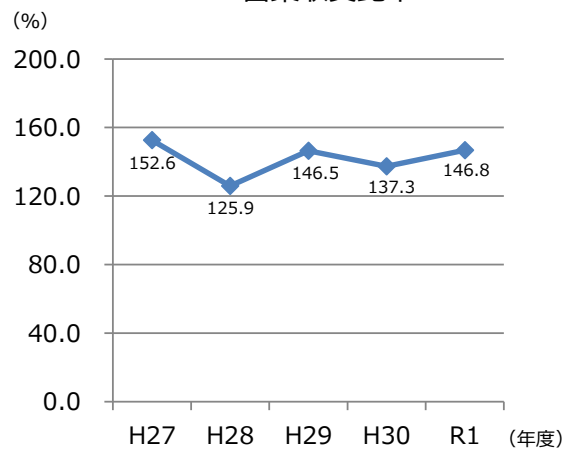
### Ⅲ 工業用水道事業会計

#### 1 工業用水道事業業務指標～直近5カ年の推移～

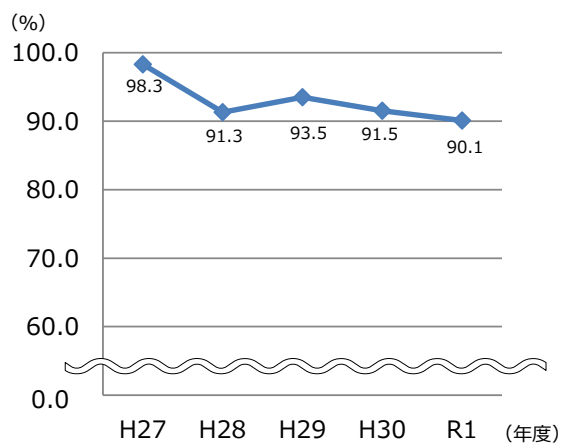
供給単価



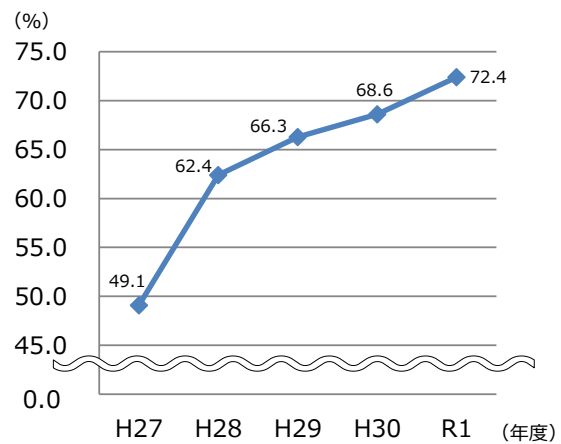
営業収支比率



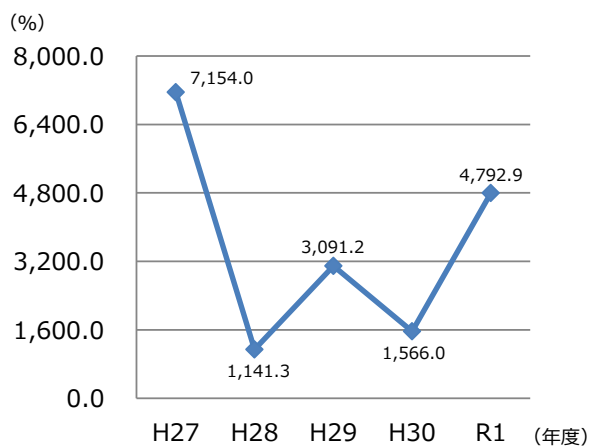
自己資本構成比率



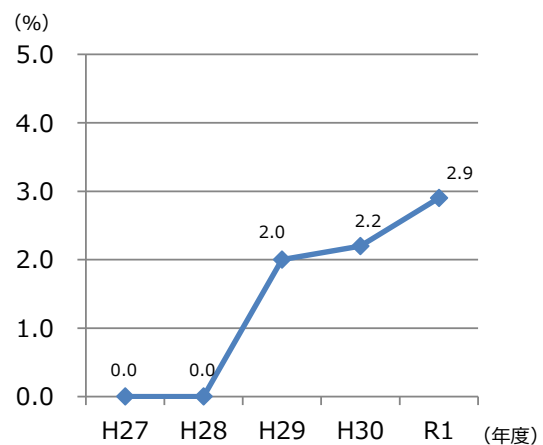
固定比率



流動比率



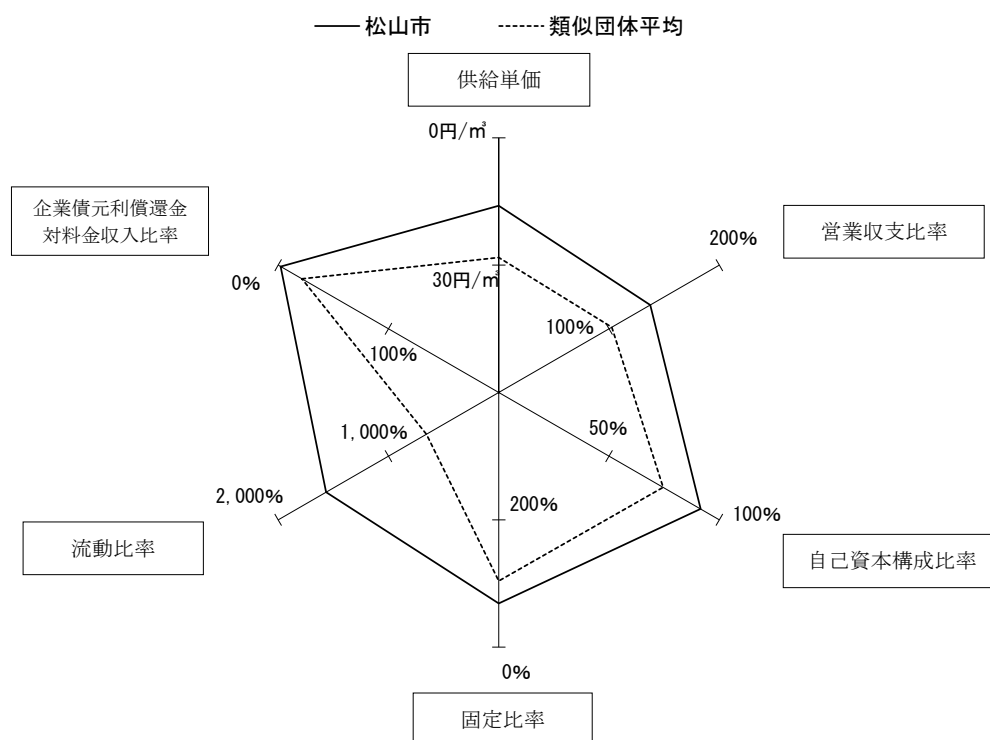
企業債元利償還金  
対料金収入比率





## 2 【参考】平成30年度工業用水道事業業務指標～類似団体平均値との比較～

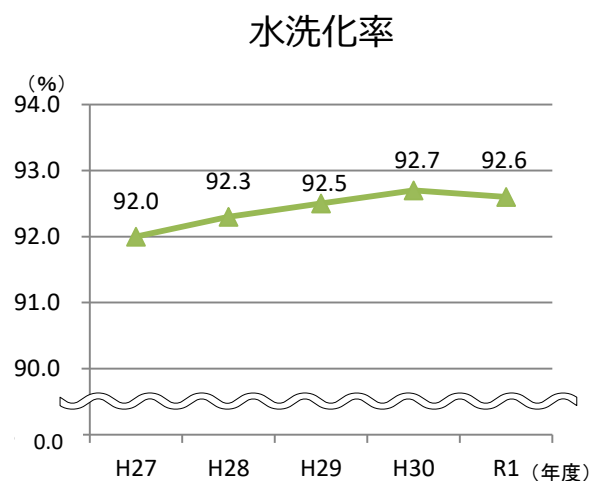
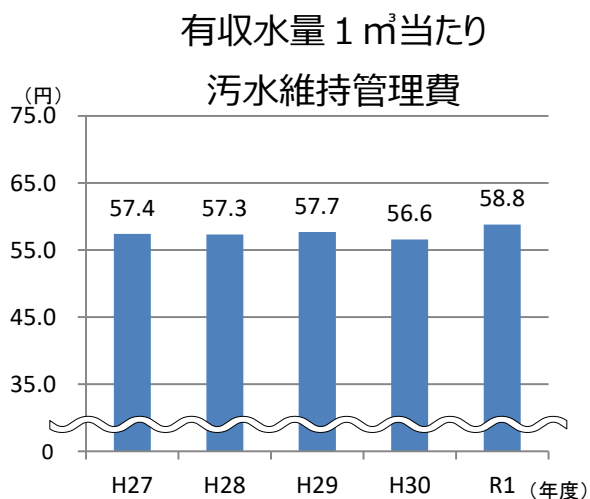
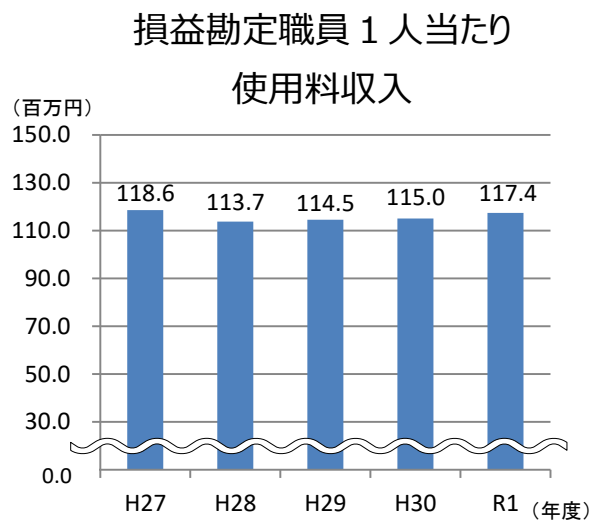
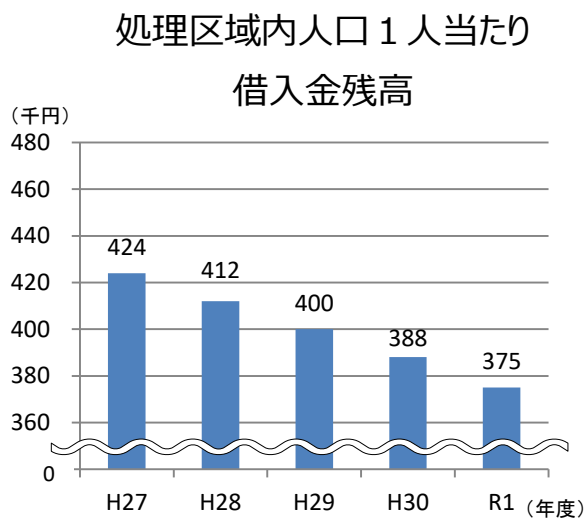
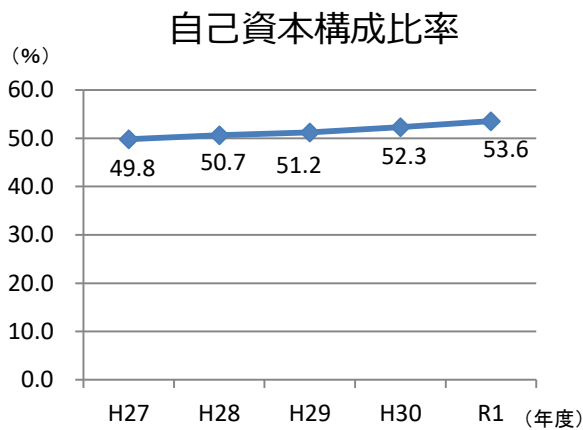
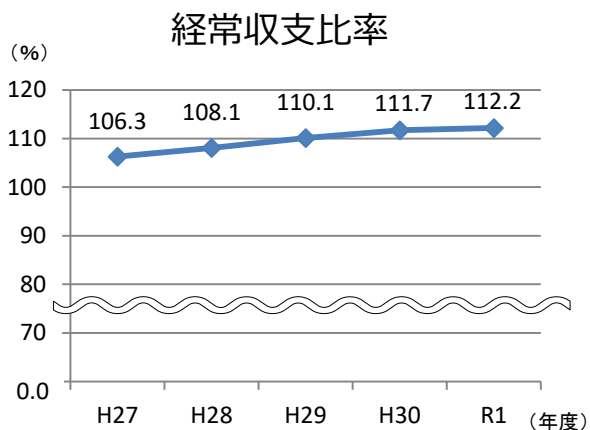
指標	単位	松山市	平均	説明	算定式	備考
供給単価 (平成30年度)	円/m <sup>3</sup>	16.0	28.2	有収水量(料金算定分)に対する給水収益	$\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$	低い方が良い
営業収支比率 (平成30年度)	%	137.3	102.4	営業収益の営業費用に対する割合で、本来の営業活動の収益力を見る指標(100%を一定程度上回る必要あり)	$\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$	高い方が良い
自己資本構成比率 (平成30年度)	%	91.5	74.5	総資本に対する自己資本の割合で財務の安全性を見る指標	$\frac{\text{資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益}}{\text{負債+資本合計}} \times 100$	高い方が良い
固定比率 (平成30年度)	%	68.6	103.9	固定資産を自己資本でどの程度賄っているかを示す財務構造の安定度(安全性)を見る指標 ・理想 100%未満 ・健全 100%～120% ・過剰投資 200%以上	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益}} \times 100$	低い方が良い
流動比率 (平成30年度)	%	1,566.0	655.7	流動負債に対する流動資産の割合で、短期債務に対する支払い能力を示すもの(理想比率は200%以上)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	高い方が良い
企業債元利償還金 対料金収入比率 (平成30年度)	%	2.2	21.5	料金収入に占める企業債元利償還金の割合	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{給水収益}} \times 100$	低い方が良い



#### IV 公共下水道事業会計

##### 1 公共下水道事業業務指標～直近5カ年の推移～

〔※経常収支比率は、附帯事業に係る収益及び費用を加算し、算出している。〕



## 2 【参考】平成30年度公共下水道事業業務指標～中核市平均値との比較～

項目	指標	単位	松山市	平均※1	説明	算定式	備考
収益性	経常収支比率 (平成30年度)	%	111.7	108.1	経常費用が経常収益でどの程度賄われているかを示す指標	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$	高い方が良い
安全性①	自己資本構成比率 (平成30年度末)	%	52.3	57.7	総資本に対する自己資本の割合で財務の安全性を見る指標	$\frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金}}{\text{負債} + \text{資本合計}} \times 100$	高い方が良い
安全性②	処理区域内人口1人 当たり借入金残高 (平成30年度末)	千円/人	388	199	現在の処理区域内人口1人当たり、どれだけ借入金残高(企業債残高+他会計借入金残高)があるかを示す指標	$\frac{\text{借入金残高}}{\text{現在処理区域内人口}}$	低い方が良い
生産性	損益勘定職員1人 当たり使用料収入 (平成30年度)	千円/人	114,973	102,678	損益勘定職員(維持管理部門に従事する職員)1人当たりの生産性について、使用料収入を基準として把握するための指標	$\frac{\text{下水道使用料収入}}{\text{損益勘定所属職員数}}$	高い方が良い
コスト	有収水量1m <sup>3</sup> 当たり汚水維持管理費 (平成30年度)	円/m <sup>3</sup>	56.6	57.0	有収水量1m <sup>3</sup> 当たりに対し、どれだけ汚水維持管理費に要する経費がかかっているかを示す指標	$\frac{\text{汚水処理費(維持管理費)}}{\text{年間有収水量}}$	低い方が良い
効率性	水洗化率 (平成30年度末)	%	92.7	94.8	現在の処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水を下水道で処理している人口の比率を示す指標	$\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}} \times 100$	高い方が良い

※1 中核市平均(地方公営企業法適用済み・48事業者)の各指標値は、総務省ホームページに掲載される平成30年度地方公営企業決算状況調査データを参考に、加重平均で算出した。

※2 営業外の収益及び費用には、附帯事業の収益及び費用をそれぞれ含む。

